

■北海道大、2部の東京農業大も白星発進。第2節

第49回北海道学生選手権第2節は9月3日、札幌市円山競技場で1、2部の各1試合を行った。1部は北海道大（前年優勝）が100-6で室蘭工業大（前年2部）に勝利した。3校で争う2部は、前年1部で最下位に終わった東京農業大が53-0で、3年ぶりの公式戦出場となる札幌学院大を下した。第3節は9月10日、帯広畜産大グラウンドで1部の釧路公立大-帯広畜産大の1試合を行う。

前年優勝の北海道大は14TDの猛攻で圧勝した。キックオフ後の最初のプレーでWR宮崎大地（4年、兵庫・星陵高）の62ヤードTDキャッチで先制すると、第1Q2分にRB榊琢也（4年、札幌東高）が15ヤードTDランで加点した。若手も続いた。同4分に先発QB神田智史（2年、東京・麻布高）が2ヤードキープでTDを奪うと、LB鯨井雅生（4年、埼玉・川越東高）のインターセプトで得た好機にTE佐々木優（1年、東京・海陽高）が7ヤードTDキャッチ。第2QにはRB高橋諒太郎（2年、神奈川・湘南高）の51ヤードTDラン、第3QにはWR下島圭太郎（1年、神奈川・多摩高）が21ヤードTDキャッチと4ヤードTDラン、第4QにはLB森島康晴（1年、札幌南高）がインターセプトリターンTDを決めた。室蘭工業大は第4Q9分、北海道大のパスが乱れたファンブルをリカバーしたRB/LB富樫司（3年、札幌清田高）が65ヤードリターンTDで意地を見せるのが精いっぱいだった。



北海道大の降梁祐介HCは「神田はパスが課題だったが成長している。もう一人のQB山本康介（3年、奈良・奈良学園登美ヶ丘高）がけがをしたが、これからは神田でいく。1年生が活躍するなど若手に経験を積みせられたのも今日の収穫」と手ごたえを強調して

いた。QB神田は「立ち上がりに先輩たちが力を出してくれた。初戦なのでミスをしたくないように心がけた。来週も頑張る」と決意し、守備の要として2インターセプトと活躍したLB鯨井は「インターセプトは狙っていた。自分のインターセプトでチームが乗ってくるとうれしい。タックルミスが多かったのが課題だ」と反省も忘れなかった。一方、室蘭工業大のRB富樫は「ボールが落ちてきたので、拾って夢中で走った。残り3試合に向けてめちゃくちゃ課題が見つかった」と巻き返しを誓っていた。

2部の東京農業大はQB金井康晴（4年、神奈川・舞岡高）の4TDパスなどで快勝した。第1Q4分、WR浅川夏暉（1年、東京・安田学園高）へ17ヤードTDパスを通すと、同7分にはWR木村拓海（2年、山形・上山明新館高）へ22ヤード、第2Q1分にはWR浅川へ26ヤード、第3Q6分には浅川へ3本目の45ヤード弾を投じた。第4Qには控えQBの関叶翔（1年、茨城・日立北高専）が2TDパスと自らのランで追加点を挙げた。12人で臨んだ札幌学院大は、第1ダウンを奪うのがやっとだった。



東京農業大の西村祥紀コーチは「ゴール前で得点を許さなかったことが、次の北海道科学大戦につながる。反則が多かったので修正したい」と課題を挙げた。エースQB金井は「レシーバーの出来が良かった。1、2年生は初めての勝利。勝つ喜びを知ってくれたのでは」と喜びを見せ、4TDキャッチのWR浅川は「細かなミス直して次戦に臨みたい」と気を引き締めていた。